

第1回松永駅周辺活性化協議会(概要)

日 時	2024年（令和6年）8月8日（木）19:00～20:20
場 所	福山市西部市民センター5階多目的室
出席者	(座長) 玉井由樹 (委員) 松本陵磨、横山典好、岡田典子、島田清豪、小川一佳、沖裕人、 友田聰、遠部康人、坂田英幸 (オブザーバー) 福山西警察署、JR西日本（尾道駅）、広島県立松永高等学校 (事務局) 福山商工会議所松永支所長、福山市松永支所長、松永地域振興課長、 松永地域振興課地域づくり担当次長 ※敬称略

1 開会

2 挨拶（松永支所長）

3 出席者紹介

4 事務局説明

【協議会設立の背景】

- ・松永駅周辺は、空洞化や、大学生・外国人等の人材の活用が課題
- ・松永住民のまちづくりの機運は高まりつつある
- ・にぎわい創出に向け、多様な主体でまちの未来の姿（ビジョン）を描くために協議会を設立
- ・官民が一体となってビジョンを共有し、具体的な取組につなげていく

【今後の進め方】

- ・協議会に具体的な提案を行う松永未来会議を設置（9月下旬に発足予定）
- ・若者や女性含め多様な主体で構成された、20名程度の会議体を予定
にぎわい創出に向け、ワークショップ、実証実験を行う
- ・未来会議に期待することや検証・検討すべきテーマ等意見をいただきたい

【質疑・応答】○委員、■事務局

○「活性化」とは何を指しているのか。

■何をもって「活性化」とするかは、人によって異なる。今後出される様々な意見を踏まえ、ビジョンという形にしていきたい。

○なぜ松永駅周辺だけの活性化なのか。

■福山駅周辺のにぎわい創出の取組で一定の成果があるため、松永、神辺でも取組むこととなった。

○協議会と松永未来会議の立場的にはどういう関係性になるのか。

■協議会が未来会議を設置し、未来会議で出された意見を承認、ビジョンを取りまとめる。

5 意見交換

～にぎわい創出とは～

- 「駅前」と限定するのか。北から南へにぎわいが移った。松永全体の活性化の中で人が集まるのでは。
- 松永駅今津幹線について（活性化につながっていない、認知されていない印象）
- 駅北口の現状（アーケードの老朽化。このままでは活性化はあり得ない。多くの大学生は通過するだけ）
- 「活性化」とは「ハコ」「ヒト」「モノ」どれか。一つの場で話をしてうまくいくのか
- 若者の起業について
- 今住んでいる人も含めたにぎわい創出を
- 若い人が来たくなるような場所に（Iターンにつながるような）
- 大学生の駅周辺の利用
- 人と人とのコミュニケーションの場としての松永駅を
- 駅北口には駐車場がない
- 松永（駅周辺）を変えていきたい、変わってほしい
- はきもの資料館の活用について
- 「ハコ」「ヒト」「モノ」どれもつながっている。お金の流れをどうやって作るかが重要
- 磁石（吸引力）を大きくしようという考えが必要。松永にはどんな磁石があるのか
- 若者を引き込むべき（高校生たちに松永に何が足りないのか聞く、巻き込んでいく）
- にぎわいの定義付け

～未来会議に期待すること～

- 松永駅北口は土地の権利関係を明らかにしていかなければ
- 女性や若者から出てくる意見に期待
- お金に頼らない交流を（ゲタリンピックでの経験から）
- 次世代との交流
- 松永駅利用人数、土日と平日ではかなり異なる（福山駅周辺とは考え方を変えて）
- 地域に根差していない者の考え方も重要
- 松永駅利用者への聞き取りを
- 若い人、女性の意見を
- 方法論として、1年目（初期）は忌憚なく様々な意見を。次年度からは愚痴や批判は排除し、議論を。
- 外国人（日本人にはない外国人からの視点）を構成メンバーに

6 閉会

- 今日の議論を踏まえて、今後の松永駅周辺賑わい創出の議論を深めていきたい。
- 本日の第1回松永駅周辺活性化協議会はこれで終了とする。